



CHAPTER 29

RMON の設定

この章では、Catalyst 2960、2960-S、または 2960-C スイッチでリモート ネットワーク モニタリング (RMON) を設定する方法について説明します。特に明記しない限り、スイッチという用語は、スタンダロン スイッチおよびスイッチ スタックを指します。



(注)

スタック構成をサポートしているのは、LAN Base イメージを実行している Catalyst 2960-S スイッチだけです。

RMON は、RMON 準拠のコンソール システムとネットワーク プローブ間で交換可能な一連の統計情報と機能を定義した標準モニタリング仕様です。RMON によって、総合的なネットワーク障害診断、プランニング、パフォーマンス チューニングに関する情報が得られます。



(注)

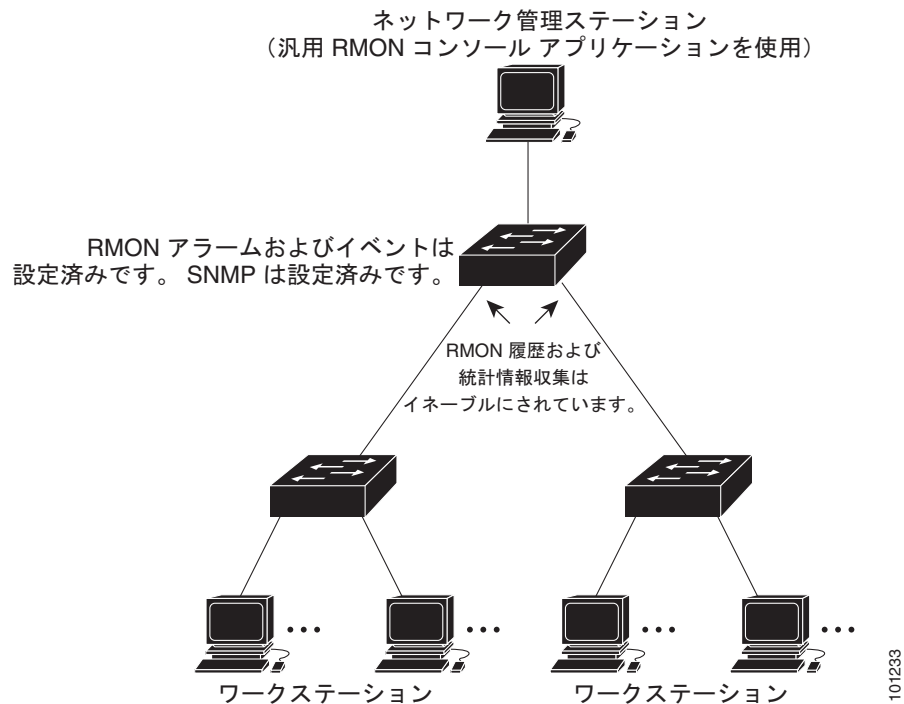
この章で使用するコマンドの構文および使用方法の詳細については、Cisco.com の『*Cisco IOS Configuration Fundamentals Command Reference, Release 12.4*』の「System Management Commands」を参照してください。

- 「RMON の概要」 (P.29-2)
- 「RMON の設定」 (P.29-3)
- 「RMON ステータスの表示」 (P.29-6)

RMON の概要

RMON は、各種のネットワーク エージェントおよびコンソール システムがネットワーク モニタリング データを交換できるようにするための、Internet Engineering Task Force (IETF; インターネット技術特別調査委員会) 標準モニタリング仕様です。図 29-1 のように、RMON 機能をスイッチの Simple Network Management Protocol (SNMP; 簡易ネットワーク管理プロトコル) エージェントと組み合わせて使用することによって、接続されているすべての LAN セグメント上のスイッチ間で流れるすべてのトラフィックをモニタリングできます。

図 29-1 リモート モニタリングの例



スイッチは次の RMON グループ (RFC 1757 で規定) をサポートしています。

- 統計情報 (RMON グループ 1) : インターフェイス上のイーサネットの統計情報 (スイッチ タイプとサポートされているインターフェイスに応じた、ファストイーサネットやギガビットイーサネット統計情報など) を収集します。
- 履歴 (RMON グループ 2) : 指定されたポーリング間隔で、イーサネット ポート上 (スイッチ タイプおよびサポートされるインターフェイスに応じた、ファストイーサネットおよびギガビットイーサネット統計情報を含む) の統計情報グループの履歴を収集します。
- アラーム (RMON グループ 3) : 指定された期間、特定の MIB (管理情報ベース) オブジェクトをモニタリングし、指定された値 (上限しきい値) でアラームを発生し、別の値 (下限しきい値) でアラームをリセットします。アラームはイベントと組み合わせて使用できます。アラームがイベントを発生させ、イベントによってログ エントリまたは SNMP トラップが生成されるようにできます。
- イベント (RMON グループ 9) : アラームによってイベントが発生したときのアクションを指定します。アクションは、ログ エントリまたは SNMP トラップを生成できます。

このソフトウェア リリースがサポートするスイッチは、RMON データの処理にハードウェア カウンタを使用するので、モニタが効率的になり、処理能力はほとんど必要ありません。



(注) 64 ビット カウンタは、RMON アラームではサポートされていません。

RMON の設定

- 「RMON のデフォルト設定」(P.29-3)
- 「RMON アラームおよびイベントの設定」(P.29-3) (必須)
- 「インターフェイス上でのグループ履歴統計情報の収集」(P.29-5) (任意)
- 「インターフェイス上でのイーサネット グループ統計情報の収集」(P.29-6) (任意)

RMON のデフォルト設定

RMON はデフォルトでディセーブルです。アラームまたはイベントは設定されていません。

RMON アラームおよびイベントの設定

スイッチを RMON 対応として設定するには、コマンドライン インターフェイス (CLI) または SNMP 準拠の Network Management Station (NMS; ネットワーク管理ステーション) を使用します。NMS 上で汎用 RMON コンソール アプリケーションを使用し、RMON のネットワーク管理機能を利用することを推奨します。RMON MIB オブジェクトにアクセスするために、スイッチ上で SNMP を設定することも必要です。詳細については、第 31 章「SNMP の設定」を参照してください。



(注) 64 ビット カウンタは、RMON アラームではサポートされていません。

RMON アラームおよびイベントをイネーブルにするには、特権 EXEC モードで次の手順を実行します。この手順は必須です。

	コマンド	目的
ステップ 1	<code>configure terminal</code>	グローバル コンフィギュレーション モードを開始します。
ステップ 2	<code>rmon alarm number variable interval {absolute delta} rising-threshold value [event-number] falling-threshold value [event-number] [owner string]</code>	MIB オブジェクトにアラームを設定します。 <ul style="list-style-type: none"> <i>number</i> には、アラーム番号を指定します。指定できる範囲は 1 ～ 65535 です。 <i>variable</i> には、モニタ対象の MIB オブジェクトを指定します。 <i>interval</i> には、アラームが MIB 変数をモニタリングする時間を秒数で指定します。指定できる範囲は 1 ～ 4294967295 秒です。 各 MIB 変数を直接テストする場合は、absolute キーワードを指定します。MIB 変数のサンプル間の変動をテストする場合は、delta キーワードを指定します。 <i>value</i> には、アラームを発生させる値およびアラームがリセットされる値を指定します。上限および下限しきい値に指定できる範囲は -2147483648 ～ 2147483647 です。 (任意) <i>event-number</i> には、上限および下限しきい値が限度を超えた場合に発生させるイベントの番号を指定します。 (任意) owner string には、アラームの所有者を指定します。
ステップ 3	<code>rmon event number [description string] [log] [owner string] [trap community]</code>	RMON イベント番号に対応付けられた RMON イベント テーブルにイベントを追加します。 <ul style="list-style-type: none"> <i>number</i> には、イベント番号を割り当てます。指定できる範囲は 1 ～ 65535 です。 (任意) description string には、イベントの説明を指定します。 (任意) イベント発生時に RMON ログ エントリを生成する場合は、log キーワードを使用します。 (任意) owner string には、イベントの所有者を指定します。 (任意) trap community には、このトラップ用の SNMP コミュニティ スtring を入力します。
ステップ 4	<code>end</code>	特権 EXEC モードに戻ります。
ステップ 5	<code>show running-config</code>	設定を確認します。
ステップ 6	<code>copy running-config startup-config</code>	(任意) コンフィギュレーション ファイルに設定を保存します。

アラームをディセーブルにするには、設定した各アラームに対して、**no rmon alarm number** グローバル コンフィギュレーション コマンドを使用します。設定したすべてのアラームを一度にディセーブルにすることはできません。イベントをディセーブルにするには、**no rmon event number** グローバル コンフィギュレーション コマンドを使用します。アラームおよびイベントの詳細および相互作用については、RFC 1757 を参照してください。

任意の MIB オブジェクトにアラームを設定できます。次の例では、**rmon alarm** コマンドを使用して、RMON アラーム番号 10 を設定します。このアラームは、アラームがディセーブルになるまで 20 秒ごとに MIB 変数 *ifEntry.20.1* をモニタし、変数の立ち上がり時または立下り時の変化をチェックします。*ifEntry.20.1* 値で MIB カウンタが 100000 から 100015 になるなど、15 以上増加すると、アラームが発生します。そのアラームによってさらにイベント番号 1 が発生します。イベント番号 1 は、**rmon event** コマンドで設定されています。使用できるイベントは、ログ エントリまたは SNMP トラップです。*ifEntry.20.1* 値の変化が 0 の場合、アラームはリセットされ、再び発生が可能になります。

```
Switch(config)# rmon alarm 10 ifEntry.20.1 20 delta rising-threshold 15 1
falling-threshold 0 owner jjohnson
```

次に、**rmon event** コマンドを使用して RMON イベント番号 1 を作成する例を示します。このイベントは *High ifOutErrors* と定義され、アラームによってイベントが発生したときに、ログ エントリが生成されます。ユーザ *jjones* が、このコマンドによってイベント テーブルに作成される行を所有します。次の例の場合も、イベント発生時に SNMP トラップが生成されます。

```
Switch(config)# rmon event 1 log trap eventtrap description "High ifOutErrors" owner
jjones
```

インターフェイス上でのグループ履歴統計情報の収集

収集情報を表示するには、最初に RMON アラームおよびイベントを設定する必要があります。

インターフェイス上でグループ履歴統計情報を収集するには、特権 EXEC モードで次の手順を実行します。この手順は任意です。

	コマンド	目的
ステップ 1	configure terminal	グローバル コンフィギュレーション モードを開始します。
ステップ 2	interface interface-id	履歴を収集するインターフェイスを指定し、インターフェイス コンフィギュレーション モードを開始します。
ステップ 3	rmon collection history index [buckets bucket-number] [interval seconds] [owner ownername]	指定されたバケット数および時間で、履歴収集をイネーブルにします。 <ul style="list-style-type: none"> <i>index</i> には、RMON 統計グループを指定します。指定できる範囲は 1 ~ 65535 です。 (任意) buckets bucket-number には、RMON 統計グループ履歴収集に必要な最大バケット数を指定します。指定できる範囲は 1 ~ 65535 です。デフォルトのバケット数は 50 です。 (任意) interval seconds には、ポーリング サイクルを秒数で指定します。指定できる範囲は 1 ~ 3600 です。デフォルトは 1800 秒です。 (任意) owner ownername には、RMON 統計グループの所有者名を入力します。
ステップ 4	end	特権 EXEC モードに戻ります。
ステップ 5	show running-config	設定を確認します。

■ RMON ステータスの表示

	コマンド	目的
ステップ 6	<code>show rmon history</code>	スイッチ履歴テーブルの内容を表示します。
ステップ 7	<code>copy running-config startup-config</code>	(任意) コンフィギュレーション ファイルに設定を保存します。

履歴収集をディセーブルにするには、`no rmon collection history index` インターフェイス コンフィギュレーション コマンドを使用します。

インターフェイス上でのイーサネット グループ統計情報の収集

インターフェイス上でイーサネット統計グループを収集するには、特権 EXEC モードで次の手順を実行します。この手順は任意です。

	コマンド	目的
ステップ 1	<code>configure terminal</code>	グローバル コンフィギュレーション モードを開始します。
ステップ 2	<code>interface interface-id</code>	統計情報を収集するインターフェイスを指定し、インターフェイス コンフィギュレーション モードを開始します。
ステップ 3	<code>rmon collection stats index [owner ownername]</code>	インターフェイス上で RMON 統計情報収集をイネーブルにします。 <ul style="list-style-type: none"> <code>index</code> には、RMON 統計グループを指定します。有効な範囲は 1 ~ 65535 です。 (任意) <code>owner ownername</code> には、RMON 統計グループの所有者名を入力します。
ステップ 4	<code>end</code>	特権 EXEC モードに戻ります。
ステップ 5	<code>show running-config</code>	設定を確認します。
ステップ 6	<code>show rmon statistics</code>	スイッチ統計テーブルの内容を表示します。
ステップ 7	<code>copy running-config startup-config</code>	(任意) コンフィギュレーション ファイルに設定を保存します。

イーサネット統計グループの収集をディセーブルにするには、`no rmon collection stats index` インターフェイス コンフィギュレーション コマンドを使用します。

次の例では、所有者 `root` の RMON 統計情報を収集する方法を示します。

```
Switch(config)# interface gigabitethernet2/0/1
Switch(config-if)# rmon collection stats 2 owner root
```

RMON ステータスの表示

RMON ステータスを表示するには、表 29-1 の特権 EXEC コマンドを 1 つまたは複数使用します。

表 29-1 RMON ステータスを表示するコマンド

コマンド	目的
<code>show rmon</code>	汎用 RMON 統計情報を表示します。
<code>show rmon alarms</code>	RMON アラーム テーブルを表示します。
<code>show rmon events</code>	RMON イベント テーブルを表示します。

表 29-1 RMON ステータスを表示するコマンド (続き)

コマンド	目的
<code>show rmon history</code>	RMON 履歴テーブルを表示します。
<code>show rmon statistics</code>	RMON 統計情報テーブルを表示します。

表示されている各フィールドの情報については、Cisco.com で『*Cisco IOS Configuration Fundamentals Command Reference, Release 12.4*』の「System Management Commands」を参照してください。

